

はじめに

農村環境は、水田、畑などの農地のほかに、雑木林や屋敷林、用水路、ため池など、多様な環境から形成され、自然に寄り添うように地域住民が育んできた地域文化や伝統とともに成り立っています。

地球規模での異常気象や急激な経済変化の中で、今、私たちは災害や食料の確保などに強い関心と不安を感じています。こうした社会の動きに相関して、「農村環境に対する意識」にも大きな変化が生まれ、これまでの生産基盤としての役割のほかに、潤いや安らぎの空間、安心・安全な食料を作り出す環境として「財産」という意識が高まっています。



新潟市は、合併して多くの自然や生態系、文化が共存する都市となりました。このことは本市の最大の特徴の一つです。こうした農村環境という財産を紡いで私たちの暮らしを魅力的にする考え方は、合併以後、新・新潟市が目指す「田園型政令市」の将来像に重ねて進めてきました。しかし一方で、農村においては、高齢化による地域固有の伝統文化の衰退や環境資源の低下が懸念されています。この新しい農村環境計画では、農村が置かれている状況を把握しながら、地域社会に潤いと活性化をもたらすために基本となる環境配慮方針をあげることにいたしました。

農業農村整備事業の実施にあたっては、生産基盤と併せ、生態系や生物多様性の保全、さらには美しい景観の形成などにも目を向け、可能な限り環境配慮を進めます。また、保全方針をより広域的に、そして地域づくりにつながる取り組みとすることで、全国に誇る安心・安全な「新潟ブランド」の充実や農業環境の健全な維持・保全につなげたいと考えています。

また、低平地にある本市においては、農業用施設の多面的利用は大きな恵みで、雨水排除に大きな力となる「排水機場」や「田んぼダム」は、地域の社会資本として活用している実態もあり、市民全体でこうした施設の維持保全を支援していかなければなりません。

「安心・安全」と「潤い」のある暮らしをもたらす「美しい豊かな農村環境」を次世代に残すために、これからも市民の皆さまとともにこの財産を守り、活かす取り組みを進めてまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見を頂きました市民の皆さま、熱心にご討議いただきました(仮称)新・新潟市農村環境計画検討委員の皆さまをはじめ関係各位に、心より感謝を申し上げますとともに、今後とも皆さまのご協力をお願い申し上げます。

平成 24 年 4 月

新潟市長 篠 田 昭

目 次

第1章 総 論	1
1.1 計画策定の背景	2
1.2 目的と位置づけ	3
1.2.1 目 的	3
1.2.2 位 置 づ け	3
1.2.3 関連上位計画の整理	4
1.3 計画対象地域と検証	8
1.4 計画策定手順・体制	9
第2章 地域の現状と環境評価	11
2.1 地域の概要	12
2.1.1 地 域 の 概 要	12
2.1.2 地 勢	14
2.1.3 気 象	15
2.1.4 地 形	16
2.1.5 動 植 物	18
2.1.6 景 観	29
2.2 新潟市の現状	30
2.2.1 自然環境の現状	30
2.2.2 農業生産環境の現状	33
2.2.3 社会環境の現状	43
2.3 環境の評価	46
2.3.1 課 題 の 抽 出	46
2.3.2 既 存 調 査	48

第3章 農村環境の基本方針に関する事項	57
3.1 農村環境の基本的な考え方	58
3.2 農村環境の基本方針と対応方策の展開	60
第4章 農村環境の将来に向けて	73
4.1 地域区分(エリア・ゾーンの設定)	74
4.2 農業農村整備事業における環境配慮事項	80
4.2.1 農道整備における環境配慮事項	82
4.2.2 用排水路整備における環境配慮事項	95
4.2.3 ほ場整備における環境配慮事項	110
4.2.4 農村景観の配慮事項	121
4.2.5 その他の環境配慮事項	125
4.3 農業・農村の多面的機能の発現	127
4.3.1 農業・農村の有する多面的機能について	127
4.4 農村環境の将来に向けて	143
第5章 農村環境の保全対策と計画の推進	145
5.1 環境保全対策の方針	146
5.2 計画の推進	147
5.2.1 計画の実行性の確保	147
5.2.2 計画の進め方	147
5.2.3 計画の推進体制の整備	148
5.2.4 今後の展開	149

卷末資料	151
資料出典	152
検討委員会経過	153
参考資料	参-1
参-1 現況調査	参-2
参 1-1 自然環境調査	参-3
参 1-2 社会環境調査	参-59
参 1-3 生産環境調査	参-129
参-2 住民意向調査	参-131
参 2-1 住民意向調査の把握	参-132
参 2-2 住民意向調査の取りまとめ	参-139